

樽一物語 樽一のはじまり~その4 高田馬場に第1号店開店

「樽一」の創業の地は高田馬場駅前。今のJR高田馬場駅早稲田口を出て道路を渡り、西武新宿線の線路とJRの線路の間のあたりにちょっとした飲み屋街があった。ここに約7坪の小さな店を開くこととした。当時、地下鉄東西線はまだ開通しておらず、今のJRの高田馬場駅前もまだ屋台のバラック建ての飲み屋があり、戦後の名残があった。

高田馬場はいわゆる学生街であり、当時の高田馬場は今よりもさらに学生街の雰囲気が強かった。高田馬場の商店は学生を相手に成り立っていて、学生を抜きには高田馬場の存在は考えられなかった。居酒屋も学生相手の安く酒が飲める店が多かった。

しかし、佐藤孝は学生を店にいれることは考えなかった。「樽一」は、サラリーマンが一日の労働を終え、料理と酒を静かに楽しみ、一日の疲れを癒す場にしたい、そのような店を目指していたからだ。席は18席、料理人としての経験がない佐藤孝が包丁をふるい、他に従業員1名と佐藤孝の妻が手伝う小さな店だった。

昭和43年12月、日本酒と三陸の味をサラリーマンに提供する居酒屋「樽一」第1号店が開店した。